

美術科学習指導案

3年2組 男子23名 女子17名 計40名

指導者 藪 陽介

1 題材名 「図で伝える ～サイン表示について考える～」

2 題材について

公共の施設などで見られる案内表示のことを、サインと言っている。また、施設全体や広場など、広い空間全体を統一感のある美しいデザインすることとして、サイン計画と捉えられてもいる。サインの大きな目的は、人々の行動のよりどころとなる情報を、単純な図などで伝えたい内容を的確に伝えることにある。それに付随して、形や色彩などを美しくデザインすることにより、人々に心地よい環境を提供するという意義もある。

本題材は、インターネット上で話題になっていた、わかりにくいサイン表示を提示し、その改善案をつくる活動を通してデザインのもつ形や色彩の意味を考えさせるというものである。実際に設置され、そのわかりにくさから不満の声が上がったという事例を取り上げることにより、日常生活を想起させるのと同時に、必要感を喚起し課題意識をもたせたいと考える。第1次で個人単位で改善案を考えさせた後、第2次では、似通った案ごとにグルーピングを行い、グループごとに最良のアイデアを話し合いの中で考えさせたい。また、複数のグループ案を発表させる際、意図的に比較させることで、それぞれのよさや、さらによくするためのアイデアについて話し合いが深まるように仕組みたい。その際、授業の冒頭で確認したサインの条件である「誰が見ても正確な情報が伝わる」を基準に話し合いを進めたい。

本題材を通して、身の回りの生活にあるデザインの果たす役割について気付かせると同時に、図で伝える（プレゼンテーション等）機会などに形や色彩を意識して伝えたい情報を的確に伝えられるよう、生かされることを期待している。

3 題材の目標

- ・ 伝えたい情報について分かりやすさや美しさなどを考えて表現することに関心をもち、主体的に構想を練ろうとしている。（美術への関心・意欲・態度）
- ・ 伝えたい位置情報を正確に人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、構想を練ることができる。（発想や構想の能力）
- ・ 形や色彩などの要素などから、それらが伝える内容について感じ取ることができる。（鑑賞の能力）

4 全体計画（全2時間 本時 2/2）

次	学習活動	配時
1	・サインについて知る。 ・新宿ビル内に実際に設置されたサイン表示を見せ、それぞれの施設がどこにあるのかについて考える。 ・各自で改善のアイデアを練る。	1
2	・各自の改善案を持ち寄り、グループ内でよりよいアイデアについて検討する。 ・グループ案を発表する。 ・グループ案を比較しながら、そのよさを見出したり、さらによりよいアイデアについて話し合ったりする。	1 (本時)

5 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・グループ内や、全体の話し合いのなかで、伝えたい位置情報を正確に人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、構想を練ることができる。

(2) ねらいに迫るために充実させたい言語活動

本題材は、「事実を正確に理解し伝達する」ために、グループや学級の話し合いのなかで、サイン表示を工夫させる。その際、形や色彩のもつ効果をどのように改善すればより伝わりやすくなるのかについて、配置、方向性、まとまり、などの言葉を意識して使わせることが重要であると考え。また、「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」ために、似通った改善案同士でグルーピングを行い、比較することでよりよい考えを引き出しやすい場の設定を行う。

(3) 展開（本時 2/2）

学習活動	指導上の留意点と評価（●） <u>下線部</u> は〔共通事項〕の内容
○ 課題を確認する。	・ 課題とともにサインの条件「誰が見ても正確な情報が伝わる」も確認し、改善案を練りあげていく際の指針とする。
どのように改善すれば正確な施設の位置がわかるようになるのだろうか	
○ 各自の改善案を持ち寄り、グループ内でよりよいアイデアについて検討する。	・ 似通ったアイデア同士でグルーピングを行い、グループの改善案として、その特徴が現れたものになるよう、適宜助言する。

- ・ 矢印の方向性を意識する
 - ・ 矢印とピクトの配置を意識する
 - ・ 色彩を使いまとまりを意識する
- など

○ グループ案を発表する。

- ・ 矢印の方向ごとに色分けや上下の間隔を開ける
- ・ 矢印を左右や上下に集めて表示する
- ・ 矢印の方向ごとに段をずらし、違いを明らかにする
- ・ 太い矢印の中にピクトを入れる

など

○ 話し合いを終えて授業を振り返り、図で伝えるときに大切なことや、感想をワークシートに書く。

○ まとめの話を聞く。

- ・ 机間指導をしながら、比較をして、その違いが明確になりそうなグループを選出する。

- ・ 基本的な改善案のグループから発表させ、徐々に改善要素が加わり、よくなっていくように発表させる。

- ・ 変更した部分と、それによって改善された部分を明確にして発表させる。

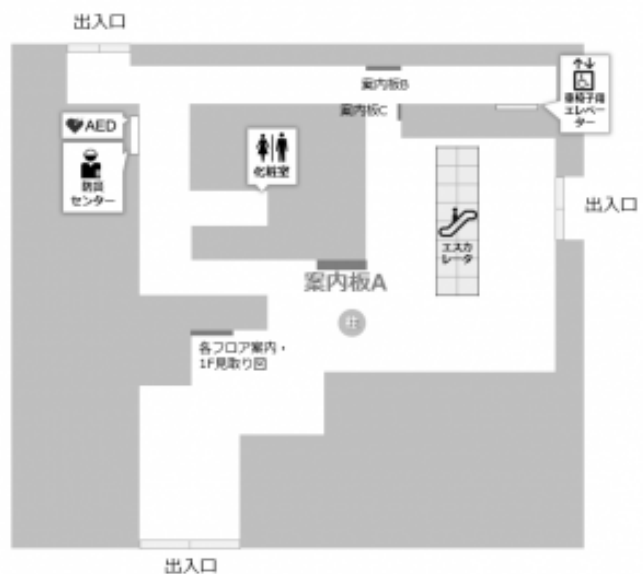
- ・ 発表者からの一方向的なプレゼンテーションに留まることなく、発表を聞いている生徒からも、感想やさらによくなるアイデアが出るよう、机間指導などで生徒の考えを把握しておく。

● 伝えたい位置情報を正確に人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、構想を練っているか。

- ・ 視覚言語伝達能力は、プレゼンテーションを始め、今後様々な場面で必要であることを伝え、生涯学習としての視点を与えたい。



実際にあったサイン表示（案内板 A）



実際の配置図